特116
862 9

第四版

弧山流

尺八入門

全

若原弧山著

始

特116
862ロ

立奏姿勢

坐奏姿勢

大正
4.2.10
文内

孤山流

尺八入門

若原孤山著

第四版

尺八入門序

近時吾邦の音樂は日に月に隆盛の運に向ひ斯道を學ふ者亦甚多し然れ共其多くは尺八樂本來の樂理に反き徒らに音色のみを弄するもの或は樂理に迷ひて間拍子のみを學ふもの等一方に偏し以て尺八の眞味を沒却するに至るものあるを見る現今良師も數多各地に散在し良書各肆に充棟せり然れ共多くは其一方に偏したる師書にして實に隔靴痒痛の感あらしむ眞に斯道の爲め嘆せざるを得ず

予斯道の指南を爲す茲に年あり其間に於て得たる結果として畧完全なる譜式を作り其要領の文字を以て顯し得る限り小冊子に著し世間同好の士に頒ち獨習の師たらずも徒然の伴伍たらしめんとす然れ共恐る著者の淺學無識なる必すや識者の一笑を招かんを乞ふ垂教の勞を惜む莫れ

予の作曲に關しては太宰大撿校土岐撿校其他音樂指針會員諸氏の箏三絃に依りて受けたる功多し篤に記して感謝の意を表す

明治辛亥の歳初夏米のなる木の旭河畔にて

小波の音を聞つゝ　　松風軒　若原孤山誌

孤山流尺八入門目次

一尺八保持法……一頁
一委　勢……仝
一吹奏法心得……仝
一箏、三絃と當流尺八の調律法……二頁
一音譜記號……四頁
一音の高低……七頁
一拍子符號……八頁
一諸種の記號……一一頁
一重復譜の奏法……一三頁

簡易尺八音譜　自第一　至第二十二

孤山流尺八入門

松風軒　若原孤山著

尺八保持法

卷頭に示す如く構へ右手の第四指にて第一孔を第二指にて第二孔を塞き左手の第四指にて第三孔を第二指にて第四孔を第一指にて第五孔を塞き右手の第三指第一指及左手の第三指とにて確に尺八全体を保持すべし孔を塞くべき指は終始保持力なき性質のものなり

姿勢

坐奏にありては正しく坐し腰を前に進め胸を張り脊を彎曲せしむべからず、椅子に掛る時も上体は坐奏同様と心得べし

立奏にありては両足を揃へ足尖を少しく外方に開き決して足蹈又は足を蹈み開き杯不行儀に渉るへからず慎むへき事なり

吹奏法の心得

音樂は種類の何たるを問はず虚心平氣にして生ける神の如き心を以て奏せざるべからず就中尺八は呼吸音樂中の樂器なれば呼吸加減頗る緊要なり故に奏樂に際し心静に管を採り徐ろに奏すべし

箏三絃と當流尺八の調律法

現今外曲に於ける尺八曲の箏三絃に對する調律の法を述ふ但し本篇に於ては各種の變調に係る分は除き(次篇にて示す)二三例を掲ぐ

左記圖解に對する説明左の如し

一、表中基礎音は當流に於ては雅樂箏俗箏三絃の基礎音と少しく異なる点あれ共「レ」を以て基礎音と定めたり

二、表中「一」乃至「十」及「斗爲巾」は箏三絃の絃の名稱にて開放絃の音なり

三、本表は箏三絃に用ゆる一越より上無に至る十二律の稱呼を主とし尺八の音譜稱呼を客分として記載せり

四、尺八に於ける十二律も本表にて知得するを要す

孤山流尺八ニ合奏スル箏三絃調律表

十二律ノ稱呼	雅樂五調	三絃の調子 本調子	二上リ	三下リ	六下リ	箏の調子 平調子	古今調子	二下リ古今	呂調律調
黃鐘	徵								
鳧鐘									
双調	角								
下無									
勝絶調	羽								
斷金									
一越	商								
上無									
神仙	宮								
盤渉									
鶯鏡									
黃鐘									
鳧鏡									
双調									
下無									

十二律ノ稱呼	雅樂五調	三絃の調子 本調子	二上リ	三下リ	六下リ	箏の調子 平調子	古今調子	二下リ古今	呂調律調
勝絶調									
斷金									
一越		一 ロ	一 ハ ロ	一 ロ	一 ロ ッ	一 ロ ッ	二 ハ ロ	二 ハ	二 ハ
上無									
神仙									
上無		ハ ロ	ハ ロ	ハ ロ	ハ ロ	ハ ロ	ハ ロ	ハ ロ	ハ ロ
一越		三 ロ	三 ロ	三 ロ	三 ロ	三 ロ	四 ロ ッ	四 ロ ッ	四 ロ ッ
斷金									
平調		メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ
勝絶		ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
下無		レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ
双調		二 レ	二 レ	二 レ	二 レ	二 レ	五一 レ	五一 レ	五一 レ
鳧鏡		チ	チ	チ	チ	チ	六 チ	六 チ	六 チ
黃鐘		チ	チ	チ	三 チ	三 チ	チ	チ	チ
鶯鏡		ハ	カ チ ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
盤渉		メ ハ	ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ
神仙		ハ	三 ハ	三 ハ	三 ハ	七 ハ	五一 ハ	四 ハ	四 ハ
上無		ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ
一越		三 ロ	三 ロ	三 ロ	三 ロ	八 ロ	五一 ロ	五一 ロ	五一 ロ
斷金		ッ	ッ	ッ	ッ	九 ッ	六 ッ	六 ッ	六 ッ
平調		メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ
勝絶		ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
下無		レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ
双調		二 レ	二 レ	二 レ	二 レ	五一 レ	三 レ	三 レ	三 レ
鳧鏡		チ	チ	チ	六 チ	チ	四 チ	四 チ	四 チ
黃鐘		チ	チ	チ	三 チ	チ	チ	チ	チ
鶯鏡		ハ	カ チ ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
盤渉		メ ハ	ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ
神仙		ハ	三 ハ	三 ハ	三 ハ	七 ハ	五一 ハ	四 ハ	四 ハ
上無		ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ
一越		三 ロ	三 ロ	三 ロ	三 ロ	八 ロ	五一 ロ	五一 ロ	五一 ロ
斷金		ッ	ッ	ッ	ッ	九 ッ	六 ッ	六 ッ	六 ッ
平調		メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ
勝絶		ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
下無		レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ
双調		二 レ	二 レ	二 レ	二 レ	五一 レ	三 レ	三 レ	三 レ
鳧鏡		チ	チ	チ	六 チ	チ	四 チ	四 チ	四 チ
黃鐘		チ	チ	チ	三 チ	チ	チ	チ	チ
鶯鏡		ハ	カ チ ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
盤渉		メ ハ	ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ
神仙		ハ	三 ハ	三 ハ	三 ハ	七 ハ	五一 ハ	四 ハ	四 ハ
上無		ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ
一越		三 ロ	三 ロ	三 ロ	三 ロ	八 ロ	五一 ロ	五一 ロ	五一 ロ
斷金		ッ	ッ	ッ	ッ	九 ッ	六 ッ	六 ッ	六 ッ
平調		メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ
勝絶		ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
下無		レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ
双調		二 レ	二 レ	二 レ	二 レ	五一 レ	三 レ	三 レ	三 レ
鳧鏡		チ	チ	チ	六 チ	チ	四 チ	四 チ	四 チ
黃鐘		チ	チ	チ	三 チ	チ	チ	チ	チ
鶯鏡		ハ	カ チ ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ
盤渉		メ ハ	ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ	メ ハ
神仙		ハ	三 ハ	三 ハ	三 ハ	七 ハ	五一 ハ	四 ハ	四 ハ
上無		ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ	ロ
一越		三 ロ	三 ロ	三 ロ	三 ロ	八 ロ	五一 ロ	五一 ロ	五一 ロ
斷金		ッ	ッ	ッ	ッ	九 ッ	六 ッ	六 ッ	六 ッ
平調		メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ	メ ツ
勝絶		ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ

音譜

尺八を學ばんには左記圖解の譜名を暗記すべし

音譜表

●孔を塞くこと　○孔を開けること　◐半ば孔を塞く事

六呂六律	十二律の一例	裏孔 五	表孔 四	表孔 三	表孔 二	表孔 一	摘要
呂	上無ロ	●	●	●	●	●	甲乙共 メリにて
律	壹越ロ	●	●	◐	●	●	右仝
呂	斷金ヲ	●	●	◐	●	◐	右仝 メリにて
律	平調ツ（メ）	●	●	●	●	○	右仝 仝
呂	勝絶ツ	●	●	●	●	○	右仝 （一を打つはル）
律	下無レ	●	●	●	◐	○	右仝 メリにて
呂	双調レ	●	●	●	●	○	右仝 （一を打つはエ）
律	鳧鐘チ	●	◐	○	○	○	右仝 メリにて

呂	黄鐘チ	●	●	○	○	○	右仝
律	鸞鏡ハ	●	◐	○	○	●	右仝 メリにて
呂	磐渉ハ（メ）	●	○	○	○	○	右仝 仝
律	神仙ハ	●	○	○	●	●	右仝
（律ヘロニ仝レ）	又ハイヒ	○	○	○	●	●	甲乙共 メリにて
（仝ロニ仝レ）	イ又ハヒ	○	○	○	○	●	右仝
（仝ロニ仝シ）	ピ	○	○	●	●	●	（楽譜にはとの中に点を附しピに代ふ）右仝 少しメル
（仝ッニ仝シ）	タ	○	○	●	○	●	甲のみ 少し強く
（仝ハハニ仝シ）	カラ	●	◐	○	○	●	右仝 メリにて
（仝ハハニ仝シ）	カラ	●	○	○	●	●	右仝
（仝ハハニ仝シ）	コロ	○	○	●	●	●	乙のみ 一、二、孔交互ニ開閉ス

二回打　二回打

(仝ロニ仝シ)	リ	○	●●	○	○	乙のみ
(仝ハニ仝シ)	井	●	●	○	●●	甲のみ
(仝ナニ仝シ)	ウ	●	●	○	●●	甲乙共
(仝ハニ仝シ)	ラ	○	●	●●	●●	乙のみ
(仝ロニ仝シ)	リン	○	●	●●	●●	右仝
(仝ツニ仝シ)	ヒ	○	●	○	○	甲のみ

右の外ヤ、ホロ、等の音譜を用ゆる場合あれ共爰に略す

音律の高低

律呂と云ふ事あり十二律中六律六呂の言より出づと知らる即ち陽と陰とを言ふものならん又律とは甲音呂とは乙音なりと言ふ人あり學說は措きて同種のもの貳個ある時に用ゆる名稱と思ふべし又甲(かん)乙(をつ)をアガル、メイルと稱す

るものあれ共尺八にては低音十二律を乙と云ひ中音十二律高音三律を甲と稱す(高はヒ、ビ、タ、を云ふ)

メリ、カリ、とは或る孔より吹き出す音を高く吹く(通常ヨリ半音高を「カリ」と云ひ低く吹く(通常ヨリ半音低)を「メリ」と云ふ音旋の高低は順次に上下するを定則とす故に譜中甲又は乙の記註を省畧する場合ありそは甲にて吹くべき記註内にある乙にしてツ(甲)ツ(メ)ロ(ロ)等の次に來るハ(ハ)イビ等は無記註にても乙にて吹き又乙にて吹くへき記註内にある(乙)チハイビ等の次に來るロ(ロ)ッツ(メ)ツ等も亦無記註なれど甲にて吹べし凡て音旋前後の關係にて判斷を要す但し練磨の功にて遂には無記註にても適當の吹奏を爲し得るものなり

拍子符號

音譜の名稱は前記圖解にて了解せるならん然れ共尙吹奏及休止時間の長短を知るを要す今左に一表を以て說明す

名稱	拍子	符號	摘要
全音符	四拍子	ロ—	
全休止符		⊙	
二分音符	二拍子	ロ	
二分休止符		◎	
四分音符	一拍子	ロ|	二分音符又ハ四分音符と稱するは余音符に對して二分の一又は四分の一音符と云ふに同し
四分休止符		○	
八分音符	一拍子ノ半拍子	ロロ| 又ハ ロ♪	
八分休止符		﹀	
十六分音符	全四半拍子	ロロロロ‖ 又ハ ロ‖	
十六分休止符		﹀	

三十二分音符	全八半拍子	ロロロロロ‖‖ 又ハ ロ‖‖	音符の下に短縱線及休止符の下に短横線を畫く之を半加線と云ひ各音符又は休止符の半分の時間を加ふるものなり
三十二分休止符		﹀﹀	
二分ノ三音符	六拍子	ロ———	
二分ノ三休止符		⊙—	
四分ノ三音符	三拍子	ロ—	
四分ノ三休止符		◎—	
八分ノ三音符	一拍子半	|—	
八分ノ三休止符		○—	
十六分ノ三音符	一拍子ノ四分ノ三	|— 又ハ ♪—	
十六分ノ三休止符		﹀—	

注意音符とは吹奏時間、休符とは休息時間を言ふ

諸種の記號

符の前後左右に各種の記註をなし吹奏法の注意をなすこと左の如し

記號	說明
ハ レ ツ	上記符號は拍子の計算外にて極少時間に吹奏するものなり多くの塲合下の譜に接續して吹奏す
緩 急 中庸 徐 速	文字の意味通りにて打替拍子（拍子の速度變化するもの）と心得へし （最緩 俄徐 俄急 漸次速 稍急 等の文字を用ふることあり）
ハ……ハ	拍子不定の塲合に用ゆ（一拍子 三拍子）の時間適當に搖りて曳くものなり
レ レ	譜の中間左側に短横線ある塲合は其譜の時間内にて息を繼ぐべし
ツ ツ	低律より高律に音を替へる爲め指をすりあげるなり
ツ	右全樣なれ共指をすり上け且つ搖り吟を出す爲め顎を上下又は左右に振り其間に音を替へるなり

ツ メ ハ メ	ツ及ハのメリなり顎を顎に近け陰氣に吹く（「メ」「メ」に畧記する塲合あり）
チ カ	チのカリなり顎を張り出し陽氣に吹く（普通ノ塲合音譜ニハ「カ」ノ記註ヲ省略スル「多シ」）
ヂ バ ブ	「バ」ノ三段律 獨音符號なり 一種異樣の音色なり
ロ ◎ ロ	曲の一部分（前彈又は前歌、手事等）の終りを示す
ロ	曲の終を示す
レ ロ レ ロ レ ロ	ハレレレロロロロレレロロ ノ畧符

重複譜の奏法

同譜貳個以上重なりたる時は左の要領にて奏すべし

ロロ　第二孔を搖る
ツツ　右　仝　（第一孔を打つ塲合あり）
レレ　第三孔を搖る　（第一孔を打つ塲合あり）
ウウ　第四孔を搖る　（第三孔を打つも宜し）
チチ　右　仝　（第一孔を孔つ塲合あり）
ハハ　第五孔を搖る　（第一孔を打つ塲合あり）
イイ　第五孔を打つ
ピピ　第二孔を搖る　（第三孔を搖るも宜し）
リリ　第一孔を打つ
タタ　第三孔を搖る
井井　第四孔を搖る　（第五孔を搖るも宜し）

以上「メリ」「カリ」及半開譜にも通ず

尺八入門（説明之部）終

孤山流尺八教授曲目及公賣音譜目錄

菜の葉	冬の曲	初瀬川	二十錢
黒髪	吾妻獅子	養老の曲	二十五錢
鶴の聲	四季の詠	鶴亀の曲	二十錢
八千代獅子	明治松竹梅	新玉の曲	二十錢
七草	西行櫻	七段	二十錢
ゆき	根曳の松	春の壽	二十五錢
千鳥の曲	尺八入門	八段	二十錢
松の壽	三十錢	玉川	二十錢
巖上松	松盡し	九段	二十錢
松上鶴	十錢	松の榮	二十五錢
新雪月花	祝の曲	杜鵑の曲	二十錢
茶音頭	十五錢	亂	二十錢
凱歌の曲	小野の山	若榮	二十錢
越後獅子	秋の七草	里の曉	二十五錢
秋の言葉	二十錢	嵯峨の秋	二十五錢
御國の譽	秋津洲	吉野天人の曲	三十錢
磯千鳥	三段獅子	今小町	二十五錢
春の曲	二十錢	住吉詣	二十五錢
夏の曲	狐の嫁入	春の榮	三十錢
さむしろ	十五錢	萩のつゆ	二十五錢
秋風の曲	袖時雨	六歌仙	二十五錢
楓の花	十五錢	春の曙	二十五錢
名所土産	金剛石	那須野	二十錢
松竹梅	十五錢	小督の曲	二十錢
秋の曲	水は器	笹の露	三十錢
癸月	二十錢		
	大内山の曲		
	十五錢		
	五段調		
	十五錢		
	六段調		
	十五錢		
	新高砂		
	十五錢		
	凱旋喇叭の調		
	二十錢		
	櫻川		
	二十錢		
	川千鳥		
	二十五錢		
	山櫻		
	二十錢		

七小町	三十錢		
熊野	四十錢		
青柳	四十錢		
千代の鶯	四十錢		
融	四十錢		
八重衣	六十錢		
五段碓高低	各三十錢		
外ニ本曲古曲及新曲			

定價金參拾錢

明治四十四年七月廿五日第一版發行
大正二年三月三十日第二版發行
大正三年八月廿一日第三版發行
大正三年十二月五日第四版發行

不許復製

著作兼發行者　岡山市大字弓之町二十七番地　若原孫四郎
印刷者　岡山市下出石町百二十五番地　蒲生計
印刷所　岡山市下出石町百二十五番地　旭堂活版所
發行所　岡山市弓之町二十七番地　松風軒
發賣所　岡山市西中山下　大久保翠琴堂

304
480

錦日鶴音賣公及目曲琴樂八見流山瓜

ロッレウテハイビリタ

月見の曲	二十錢	滝の流の曲	三十錢
山雀	二十錢	滝の流の曲	三十錢
田子の浦	二十五錢	小竹の曲	二十錢
鶴の巣籠	二十錢	鶴の羽衣	二十錢
八重の桜	二十錢	富士の裾野	二十錢
高砂の松の曲	二十五錢	蓬萊の曲	二十五錢
夕顔	二十錢	桜の曲	三十錢
夏の曲	二十錢	牡丹の花	二十錢
春の曲	二十錢	小唄	二十錢
大和山の曲	二十錢	吉野天人の曲	三十錢
水鳥	二十錢	鶴の舞	二十錢
金鶏の舞	二十五錢	鶴の舞	二十錢
鶴の舞	二十五錢	里の雪	二十五錢
篝の舞人	二十五錢	音楽	二十錢
三笠山	二十錢	月の舞	二十錢
茶音頭	二十錢	月の舞	二十錢
月の曲	二十錢	月の舞	二十錢
滝の上の鶴	二十錢	滝の流の曲

終